

# 指定管理者が行う公の施設の管理状況全期間評価

施設所管部名: 地域連携部

## 1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立熊野古道センター(尾鷲市大字向井字村島12番4)
指定管理者の名称等	特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク 理事長 林 伸行 (尾鷲市野地町12番27号)
指定の期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	(1)熊野古道の歴史、自然及び文化に関する資料の収集、保管及び展示に関する業務 (2)熊野古道及びその周辺地域に関する情報の収集及び提供に関する業務 (3)交流会、体験学習会等、人及び情報の交流の促進を図る業務 (4)センターの施設の利用の許可等に関する業務 (5)センターの利用料金の收受等に関する業務 (6)センターの施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

## 2 管理業務の実施状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
H27	B		熊野古道に関する情報発信や交流拠点として、東紀州地域の自然、歴史、文化等の資源を有効に活用した各種様々な企画展や体験学習会、講座・講演会等を実施している。開館以来、工夫と改善を行いながら新たな事業に挑戦する姿勢で業務を遂行していることは大いに評価できる。経年劣化による機器類の不具合等については県担当者ともよく協議を重ね、来場者への支障が出ないよう適切に対応している。 指定管理期間第4期においても、地域から支持されるビジターセンターとして、熊野古道や地域の魅力を発信し、あらゆる人々の交流の拠点となる施設としての業務運営を期待する。
H28	B		
H29	B		
H30	B		
R1	B		

## 3 施設の利用状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
H27	B		展示室及び特別展示室では、熊野古道や地域の自然、歴史、文化等に関する様々な企画展を開催し多くの来場者を集めている。外国人旅行者についても一定数の来場があり、常設展示や映像ホールの多言語対応など、幅広い来場者のニーズへの対応が集客につながっている。 また、イベントの開催時期を固定する等工夫した結果、「おわせマルシェ」をはじめとする地域の交流イベントの開催地として定着しつつあり、貸館事業についても、地域の方だけでなく県内外の各種団体に定期的に利用されるなど、リピーターによる継続的な利用も見られる。 今後も引き続き、施設稼働率の向上と来場者数の増加を目指し、地域や学校、国内外の世界遺産登録地との連携事業をさらに展開していくことで、熊野古道とその周辺地域に関する情報発信と地域交流の拠点としての機能強化を図る取組を期待する。
H28	B		
H29	B		
H30	B		
R1	B		

## 4 管理業務に関する経費の収支状況(全期間)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
指定管理料	339,332,000	事業費	44,892,364
利用料金収入	1,791,640	管理費	304,019,957
その他の収入	8,216,372	その他の支出	0
合計 (a)	349,340,012	合計 (b)	348,912,321
収支差額 (a)-(b)	427,691		

参考

利用料金減免額	15,125
---------	--------

## 5 成果目標及びその実績

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間における成果目標及びその実績						
			成果目標項目	目標値	H27実績値	H28実績値	H29実績値	H30実績値	R1実績値
H27	B		1 施設稼働率(%)	50.0	52.5	57.4	58.1	59.2	58.5
H28	B		2 事業参加者数(人)	80,000	76,952	78,398	74,762	75,736	82,140
H29	B		3 開催事業数(回)						
H30	B		(1)企画展	6	14	12	11	13	12
R1	B	+	(2)交流事業	100	144	138	150	183	271
			4 情報発信(回)						
			(1)情報誌の発行	4	4	5	4	4	4
			(2)PRポスターの作成	6	10	12	14	8	14
			5 国内外の世界遺産登録地との連携事業	2	2	2	3	3	3
			6 学校連携事業	15	23	29	25	28	19
			7 利用者の満足度(%)	95.0	98.0	97.9	98.4	97.8	97.8
全期間におけるコメント									
<p>事業参加者数を除き、成果目標のすべての項目で全期間目標を達成している。特に、利用者の満足度は90%以上と高い数値を維持している。一方、事業参加者数の目標を達成できたのは令和元年度のみとなっており、世界遺産登録15周年関連の企画や地域イベントの開催が集客につながったと考えられる。令和元年度に達成できた水準を維持・向上させていくための取組を今後も継続的に実施していくことが期待される。</p> <p>また開館から10年以上が経過し、設備等の経年劣化が進行していくなかで、来場者にとって心地よい、安全・安心な施設管理に努めながら、令和2年度からの新たな指定管理期間に設定される成果目標の達成に向けて取り組んでいく必要がある。</p>									

## 6 総括評価

- 指定期間を通じてほぼ成果目標を達成している。
  - 熊野古道や地域資源を活用した企画展、交流イベント、体験学習、講座・講演会などを地域及び関係機関と連携しながら多種多様な事業を開催し、集客交流・情報発信拠点づくりを積極的に進めている。
  - 年間を通してアンケート等を実施し、利用者のニーズ把握に努め、運営に活かしている。
  - 次世代育成の観点から、親子で安心安全に利用できるような環境整備に注力している。また、幼稚園、小中学校、高校、特別支援学校等の見学・体験学習、出前授業等を積極的に推進している。
  - 収入は指定管理料が主であるが、施設の貸館や体験学習等の開催による収入の増加を図るとともに、光熱費などの経費節約に努めている。
  - 経年劣化による施設設備の損傷等が散見される状況で、県と協議を行い、利用者へ提供するサービス低下につながらないように努めている。
  - 持続可能な循環型社会の創造に向けた環境保全活動への取組のため、再生紙の利用や両面コピーの徹底など省資源に努めている。
- また、情報公開・個人情報保護について、適正に対処している。
- 期間を通じて、上記のとおり熊野古道に関する自然、歴史、文化等を情報発信するとともに、熊野古道やその周辺地域の資源の活用及び交流の場の提供を行うことにより地域振興に資するセンターの設置目的に合致した運営が行われている。また、利用者目線の対応や、施設の有効活用並びに経費縮減など指定管理者制度の導入目的に沿った運営がなされている。
- また、令和2年度から5年間、引き続き同じ指定管理者が継続して管理を行うが、地域と連携した事業等の実施により、一層効果的かつ効率的な管理運営を図り、事業内容の充実、来場者へのサービス向上に努めていく必要がある。

- 「2 管理業務の実施状況」の自己評価 :
- 「A」 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
  - 「B」 業務計画を順調に実施している。
  - 「C」 業務計画を十分には実施できていない。
  - 「D」 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。
- 「3 施設の利用状況」
- 「5 成果目標及びその実績」の自己評価 :
- 「A」 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
  - 「B」 当初の目標を達成している。
  - 「C」 当初の目標を十分には達成できていない。
  - 「D」 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。
- 県の評価 :
- 「+」(プラス) 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
  - 「-」(マイナス) 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
  - 「」(空白) 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。